

## 町長室から

浦幌町では平成29年から大手企業の若手社員達がワークキャンプを行い、事業の提案や具体的な起業（㈱バトンプラス&㈱フォレストデジタル）を実現してきました

が、さらに発展・加速させるために、今年から「十勝うらほろ創生キャンプ地域協議会」を立ち上げて、若手社員達が浦幌町の農林水産物の高付加価値化や新たな産業・事業を創出して企業化を図るなどの取り組みを展開していくことになりました。

ただし、コロナウイルスの関係で、東京から浦幌町へ来ることを当分の間は自粛せざるを得なくなりましたので、テレビ会議などで事業を進めています。

今年には社会人枠を含めて5名が新たに浦幌町の職員に加わりましたが、研修を経て一日も早く町民の皆様の信頼を得るように努力してまいります。

また、水野豊昭新教育長の就任式が行われましたが、水野氏は教員としての始まりは幾千世小学校であり、厚内小学校、浦幌小学校の校長先生としても浦幌町に赴任

していただいております、更別小の校長時代は十勝校長会の会長も務められました。

浦幌町の教育に深い理解のある方ですので、今後の教育行政を進めていくのに最適任者と期待していますし、関井まみ子新教育委員さんと見山夕莉さん、三宅草一郎君、越前慧太君ら3人の新地域おこし協力隊の辞令交付式も行いました。

町民の皆様にもよろしくご指導をお願いいたします。

建設業協会から、設立50年の節目として町にイージーテント3張りを寄贈していただきました。

イベントや災害時に使用するため町も古いテントを順次更新中でしたので、時期を得た御寄贈に感謝申し上げます。

国が4月8日に「新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づき、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、福岡県に新型コロナウイルス対策のため1か月間の「緊急事態宣言」を発し、該当する都府県の知事は不要不急な外出を自粛するように住民に要

請しました。

しかし、その後も感染者数の増加は留まることなく推移し、北海道も感染者は日に二桁を記録するようになりました。

そのような状況を踏まえて政府は「緊急事態宣言」を全国に拡大して発令しました。

「緊急事態宣言」の発令に当たっては、3条件がありました。この条件に至っていないけれども、ゴールデンウィークを控えて人の流れが大きくなる中で全国的に蔓延する可能性が高くなったとの判断で発令されたものです。

同日に北海道知事からも「臨時会見」があり、

①今週末、不急の外出や道内各地と札幌市などこの往來の自粛

②ナイトクラブやバーなど接客を伴う飲食店の利用自粛

③人と人との距離をとった行動

④企業の時差出勤やテレワークの徹底

他には、道立の不特定多数が利用する公共施設の休館、週明けから全道の小・中・高校の一斉休業を教育委員会に検討要請もしまし

た。

札幌との環境に違いもあり、そのまま浦幌町に当てはまらない要請もあります。

浦幌町としては、基本的な対応は前回北海道で出された「緊急事態宣言」時と特に変わることはありませんが、個別の施設についての対応は緊急事態宣言の趣旨と整合性を持ちながら検討してまいります。

新型コロナウイルスとの戦いは「密閉」「密着」「密接」の3密を避け、「マスクの着用」や「手洗い」「咳エチケット」で相手にうつさないなどの武器しかありません。

まさに、見えざる敵と戦っている日々の生活の中でいつ感染するかかわらないという状況にあることは間違いありませんので、皆が「正しく恐れる」の精神で風評に惑わされることなく、自らの行動を規制しながら予防に万全を期して、早く終息宣言を発せられることを期待したいものです。

浦幌町長 水澤一廣